

# 平成 29 年度 学生生活満足度調査の結果（自由記述含む）への

## 各部署からの回答

### 全学

#### 教務部

##### ●カリキュラムと時間割

29 年度より共通教育カリキュラムに変更を加え、1 回生前期の全学共通の必修授業が増加しました。少数ではありますが「専門の授業が少なすぎる」といった声が出ています。各学科の専門を意識して入学にいたったわけですから、お気持ちは理解できます。しかし、専門の学びを生かし、またスムーズなキャリア形成をはかっていくうえで、低回生のうちに学修基礎力を身に付けておくことが欠かせません。それを土台に、専門の授業が徐々に増えていきますので、ご理解ください。なお、そうはいつでも 1 回生前期の必修科目が過密との認識はあり、30 年度より情報科目の開講期を見直して平準化をはかります。

時間割設定についての不満の声は、以前よりやや減ったように思います。28 年度以降、必修科目の開講コマをブロック化(固定化)する等の措置をすすめてきました。取りたい授業が重なって履修できない状態は、以前よりは減っているはずです。

その中で、教職等の資格科目と他の科目との重なり指摘が複数ありました。各種資格も高度化によって必要な科目が増える傾向にあるため、他の学科科目との重なりを完全に防ぐのは困難です。資格科目はもっぱら夜間・土曜開講の方針をとる大学もありますが、履修の自由度は高まるものの負担が大きいと考え、本学では採用していません。

##### ●授業の内容・運営

授業の内容・運営については多様な指摘がありましたが、授業の内容・スタイルに関する問題、授業環境・授業運営に関する問題、評価に関する問題に大別されます。

授業内容・スタイルについては、進度が速いものがある、一方的な授業がある、等の指摘がそれぞれ複数ありました。各授業については原則全科目で「授業評価アンケート」をお願いし、その結果から担当教員が反省・改善をはかるようにしています。27 年度よりこの過程をより可視化するため、教員が評価結果へのコメントを記しウェブ上で公開(学内限定公開)することとしており、学生の皆さんも、結果を閲覧することができます。アンケート回答によって学生さんに不利益が生じることはありえない仕組みで運用していますので、ご協力ください。なお、「テキストを買ったのに使わない」との声が複数ありました。不要なテキスト指定はもちろん望ましくなく、注意をしていきます。ただ、大学の学修は、授業時間だけでなく授業外学習も含めて単位を認定する仕組みですので、教員が指示する授業外学習も含めてテキストの活用が問われる点をご理解ください。

授業環境・授業運営に関しては、私語等に関するもの、教員の態度や質問対応に関するものなど、多様な指摘があります。これについても「授業評価アンケート」等をもとに対応していきます。一方で、私語等については、教員のコントロールも大きな問題ですが、学生の皆さんの自律も必要で、協力をお願いします。なお、

C-learning システムによる出席管理の問題点(不正の発生)の指摘は、目立たなくなりました。不正を絶対に排除できるシステムではないことを前提に、他の方法との併用などで工夫するよう、教員に注意喚起をしています。

成績評価について、誤り(成績訂正)を経験したとの声がありました。学生からの成績問い合わせ(疑義)があった場合は調査・対応していますが、そもそも誤りを起こさないよう、真摯に受け止めます。評価については、能力別クラスをとっている共通英語科目の問題(上級レベルに入るとよい成績がとりづらい)も指摘がありました。多数の開講クラスとなっている共通科目については、試験内容や成績平均の調整などにより、不公平が生じないよう配慮しています。その中で、能力別クラスの問題も調整をはかっています。

以上

## 学生部

### ●学生生活全般について

全体としては、71%が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答しています。

学生部としては、奨学金制度や表彰制度の充実、学生会活動やクラブ活動への支援等で、学生生活の満足度向上を図っているところであります。

アンケートに見る学生部関連の改善意見は、「トイレの改善(温水洗浄便座化)」「ごみ箱の増設」「喫煙所の増設」などが挙げられます。

「トイレの改善」「ごみ箱の増設」については、関連部署と協議をすすめます。

喫煙所の増設については、分煙を実施し、さらに健康面から節煙・禁煙をすすめており、先には学内完全禁煙を考えているところでもありますので、増設の計画はありません。

### ●学生食堂について

平成29年4月より、大学直営に転換し、食物栄養学科学生のアルバイトを多数採用し、また臨地実習施設とする等、教育の一環として運営しているところであります。

アンケートに見る学生食堂関連の意見は、「おいしくなった」という意見もありますが、「味がうすくおいしくない」「量が少ない」という意見が多く見られます。さらに「席が少ない」「営業時間の延長」「給茶機を営業時間後も使用できるように」という意見も見られます。

「味がうすくおいしくない」「量が少ない」という点は、食堂の基本的な事項でありますので、詳細を確認するため、平成30年1月15日に給食アンケートを実施しました。

その結果、「味」については、5点満点で約4点であり、「量」については、丁度良いが70%に近い数値であり、少ないとの回答は5%程度と、食事については、良好な評価でありました。今後、さらに高い評価を得られるよう努めて参ります。なお、アンケート結果は、学生食堂に掲示いたしました。

「席が少ない」という点については、テーブルの配置を見直し、改善を図ります。

「営業時間」については、昨年度に、時間帯別の利用者数を調査し、利用者が0に近い時間帯の営業はやめ、その代わりにアイスクリームや菓子パン類の自販機を新規に導入し、夜でも利用していただいているところであります。しかしながら、営業時間の延長を望む声がありましたので、再検討いたします。

「給茶機を営業時間後も使用できるように」という点につきましては、次年度に向け、関連部署と協議いたします。

#### ●売店について

アンケート結果から、狭山キャンパスでの利用は「ほとんど利用しない」が9%（昨年度10%）、泉ヶ丘キャンパスでの利用は「ほとんど利用しない」10%（昨年度9%）状況で、両キャンパスとも昨年度と比較してもほぼ変化なく9割以上の学生が何らかの形で利用している。

また、「利用していないのでわからない」を除いた利用者の満足度についても狭山キャンパスの「どちらかといえば満足している」「満足している」が81%（昨年度89%）、泉ヶ丘キャンパスの「どちらかといえば満足している」「満足している」が84%（昨年度87%）と若干昨年度から満足度のポイントは下がっているものの、満足度は高いと言える。

ただ、自由記述項目を見てみると、「営業時間が短い」「商品数が少ない」「混み合っている」等の問題点もある。営業時間の拡充は人件費に直結することや混雑緩和にはスペースが必要である事からすぐ要望の改善までには至らないが、昨年度来、「品ぞろえの検討」を売店委託業者に依頼しており、自由記述欄に「希望した商品を入荷してもらった」「欲しいものを追加してくれる」という記述もあった。

## 学生支援センター（教務課・学生生活課）

#### ●平成29年度学生満足度調査の結果を受けて

「職員の対応について」の満足度平均値は狭山キャンパスで前年比横ばい、泉ヶ丘キャンパスでは2.6ポイント上昇しました。「事務手続きについて」の満足度平均値についても、狭山キャンパスではほぼ横ばい、泉ヶ丘キャンパスは1.6ポイント上昇となりました。ただし、今年の回答で「利用していないのでわからない」と答えた方が増えており、これはC-Learningによる連絡体制が確立されてきたことによると考えられます。事務局からの校内放送での呼び出しが大幅に減少したことからも窺うことができます。

上記の2つの質問の回答から「利用していないのでわからない」の回答者を除いて、満足度を再集計すると、学生支援センターの満足度（両キャンパス合計）は大きく向上しています。

これは、昨年度までの学生諸君の意見を聴いて、「より丁寧に、よりスムーズに、より明るい対応」を心がけた成果があらわれて来たものと考えています。

#### ●今後の改善について

今年の自由記述意見において、まだ皆さんの中には不安を感じたり、不満を持っていらっしゃる方がいらっしゃることを再認識いたしました。学生満足度の向上を第一の目標に、窓口対応や教育課程における各種制度のさらなる充実を進め、両キャンパスの連携強化によりキャンパス間の格差をなくすよう努めます。サービス向上の一つとして、平成30年度からは、各種申請書の当日交付制度を始める予定にしています。

また、各学科教員や他部署との連携、協力関係を向上させ、情報共有とともに各種取り組みを支援することにより、よりきめ細かな学生支援体制の整備を進めていきます。

## キャリアセンター

### ●キャリアセンターの利用について

5 学科中キャリア英語学科を除いた 4 学科において、半数以上が「ほとんど利用しない」との回答を得ました。学年別に見ると、学年が上がるにつれて利用頻度が高まるという傾向にあります。これは、学生にとってキャリアセンターが“就職活動が始まってから利用するところ”であると捉えられているからだろうと推察できます。ただし、キャリア英語学科に関して利用頻度が他学科より高いというのは、1 期生である 3 年次生を中心に、キャリアや就職に対する関心度が高いものと思われます。

自由記述回答の中には、肯定的な意見も否定的な意見もありました。前者については「親身」というキーワードが複数見られることから、キャリアセンターの大きな魅力だと認識するとともに、この良さをさらに高めていきたいと思います。後者については、スタッフのクオリティに差があることを指摘されたものがいくつかありました。各スタッフの個性を活かしながら、カウンセリングの知識と技術はもっと高いレベルで標準化すべく努力をしていきます。

また今後は、“就職のため”だけではなく“キャリア形成のため”にもっと役立つ場所になることと、それを低年次生に認知してもらうことを課題とし、施策を打ち出していきたいと思います。

### ●センターが主催する研修会や講習会への参加について

食物栄養学科を除く 4 学科において、半数を超える学生が「全く参加したことがない」と回答しています。昨年度に比較すると数値は下がっていますが、まだまだ大きな課題だと捉えています。食物栄養学科は健康実践栄養士過程が完成年度ということで、学生自身の就職意識と学科側の支援が強かったものと思われるが、来年度以降にさらに参加率を高めるための工夫が必要だと考えます。

センター主催の研修会や講習会などにおいても、低年次生への告知を強化することをはじめ、「今の自分にとってどのプログラムが重要なのか」を各学生が認知しやすい仕組みをつくりたいと思います。

各研修会や講習会などへの参加不参加を全 3 年次生に対して記録し、参加の少ない学生に対してメールや電話などで参加を促進する取り組みは、引き続き行ってまいります。

### ●キャリアセンターの満足度をさらに高めるために

自由記述回答を見ると、35 件の回答中 15 件が肯定的な回答であったことから、実際にセキャリアセンターを利用したりセンター員に接すれば、満足を感じてもらえることが多いと考えられます。

しかし、昨年同様に「職員によって良い悪いがある」等の意見も少なからずあります。このことを真摯に受け止め、センター内では学生情報の共有だけではなく、カウンセリングの知見や手法を共有する機会を増やしていこうと思います。また、笑顔で仕事をするを全員が心がけ実践することで、気軽に相談できる雰囲気醸成することに努めようと思います。

## 図書館

### ●職員の対応

職員の対応に関しては、満足していると回答した学生の割合が、狭山キャンパスでは昨年度の 80% 台から 70% 台へ、また泉ヶ丘キャンパスでは 70% 台から 60% 台へと低くなっています。一方で、満足していないと回答した学生の割合は、両キャンパスとも減少しており、全体の評定平均値は昨年度に較べ少し上昇しています。自由記述の回答には、「無愛想、暗い、対応が遅い、態度が悪い、表情が怖い、話しづらい」といった内容の記述が見受けられるので、そうした点をまず改善し、満足度の向上に努めていきます。

ただ図書館の性格上、静かな環境作りを優先し、間違いがないよう確認しながら作業をしているため、「無愛想、対応が遅い」と受け取られたりするのかもしれませんが。図書館職員は決して「怖い」人ではありませんので、書籍や図書館の利用方法について気軽に相談して下さい。もちろん、学生の皆さんからのご意見は真摯に受け止め、これからも丁寧で親切な対応を心掛けていきます。今後は、職員ミーティングの場で学生への接遇向上について話し合い、研修などを通じて職員一人ひとりの自覚をいっそう高め、サービスの向上に努めていきます。

### ●図書貸し出し等の利用手続き

調査結果を見ると、図書の貸し出し等の利用手続きに関しては、満足していないと回答した学生の割合は、両キャンパスとも 4% 以下で、昨年度に較べ満足度が向上していることが窺えます。

自由記述の回答には、昨年と同様、貸出期間の延長を望む意見が見受けられました。他の利用者からの予約が入っていなければ、貸出期間の延長が可能ですので、ぜひ活用して下さい。また「卒論用の図書をずっと貸してほしい」「予約の仕方がいまいちわからない」の意見がありました。卒論用として独占して借りたい気持ちもわかりますが、長期にわたって書架に本がないと利用者の目に触れることがなくなってしまいます。図書館の資料は皆が利用する共有資料ですので、このあたりをご理解して利用していただけたらと思います。なお予約は簡単にできますので、一度カウンターにお越し下さい。予約に限らず不明なことがあれば、いつでもカウンターでお尋ねください。

図書貸し出し等の利用手続きに関しては、新入生に対して現在も行っている図書館オリエンテーションに加え、本年度からゼミを対象とした図書館ガイダンスの実施を積極的に PR した結果、いくつかのゼミで実施していただきました。また「探している本の場所がわかりづらい」との記述がいくつか見受けられました。この点に関しては、現在、図書館では新システム導入に向けて作業を行っていますので、新システム導入により、かなりの点が改善できるものと思われます。

開館時間の延長に関する要望(平日 21 時まで、土曜 19 時まで等々)が、本年度もありました。昨年もお答えしたように、現在の職員数では実施が困難であると言わざるを得ませんが、図書館の地域開放を含めて、全学的に検討していく課題であると考えます。

### ●施設・設備

施設・設備面については、AV 資料視聴コーナーの改善、パソコン・プリンターの台数の不足に関する指摘が数多く見られました。「AV ブースがリラックスできるようにしてほしい」「ソファがなくてビデオが見にくい」との意見に関しては、ソファで寝そべって視聴したり、AV 資料を視聴せず居眠りをしたりする学生が見受けられ

たため、新たにソファを購入することを控えた経緯があります。ソファの方がくつろげることは図書館でも重々承知していますが、どうかご理解ください。今後、学生のマナーや図書館予算の面で問題がなくなれば、ソファの導入も検討していきます。

また「AVブースのブラウン管は目がちかちかする。テレビとの距離が近くて目がしんどい」という意見がありました。この点に関して、狭山キャンパスを利用する学生の皆さんには長らくご不便をおかけしておりましたが、狭山館では1月22日にブラウン管から液晶にすべて取り替え、少しは目と画面の距離を確保することができるようになりました。ただ、もう少し広いスペースでゆったりと視聴していただければと思うのですが、電気配線の可能な場所、人の出入りが少なく気が散らずに視聴できる場所ということで、こじんまりとした部屋にAVブースを設けているのが現状です。

パソコン・プリンターの利用頻度が非常に高いことは認識していますが、図書館の現在のスペースや予算では機器の台数を増やすことが難しいのが現状です。図書館以外の場所で、もっと自由に使えるパソコンやプリンターを学内に増設することも必要と考えます。

館内の温度管理の指摘も見られました。図書館ではエリアごとに温度設定を変え、館内が同じ温度に感じるように工夫しています。しかし、天候や窓の有無によっても体感温度が変化するので、巡回することで快適な温度管理ができるよう心掛けていきます。

## 学生相談室

学生相談室の利用頻度について「ほとんど利用しない」という回答が圧倒的に多いのですが、学生相談室は、何か困った問題を抱えた方が相談する場所ですから、利用する人が少ないこと自体が問題だとは考えていません。年に数回以上利用する人が10%いるという結果は、それほど少なくないと言えるかもしれません。

しかし、利用するしない以前に、そもそも学生相談室というものを知らない人も多いと思われるので、もっと学生相談室の存在を知っていただくための宣伝をしていこうと考えています。

一方、学生相談室を利用した学生の満足度は、両キャンパスともかなり高い結果でした。しかし、満足度は1回生に比べて上回生でやや低い傾向があり、特に泉ヶ丘キャンパスでは3人の4回生が「満足していない」と回答されています。上回生のニーズにも十分答えられるように、業務を改善してゆきたいと考えています。

それぞれの学生に対して長期的な援助を行っていくには、なるべく相談員が替わらない方が良いと考えられますので、相談員が長期的に勤務できるような体制を作っていきたいと考えています。

## 保健室

### ●狭山キャンパス保健室

昨年同様、ほとんど利用しない学生が80%近くに上ります。特に健康上問題がなくて利用していないのであれば望ましいのですが、実際には心身の状態に不安がありながら、これくらいは大丈夫、或いは相談するのが面倒くさくて、等の理由で保健室と疎遠になっているのかもしれません。

病気は二次予防(早期発見・早期治療、悪化を防ぐ)から一次予防(生活習慣の改善や予防接種により疾病発生を防ぐ)の時代に移行しています。二次予防として大学側が設定した定期健康診断を受けていただくのは勿論のことですが、一次予防につながるバランスのとれた食生活、適切な睡眠・運動等の健康管理は学生自身で実践してもらわなければなりません。

これについては、保健室からの呼び掛けで健康診断結果を受け取りに来る機会、身体計測で来室時(それを学生が「保健室を利用した」カウントに入れなくても)を捉えて、今後も体調チェックと共に健康についての知識を発信していく事を考えています。

また、満足度に関しては、利用者の90%がほぼ満足と回答し、好意的な受け止め方で自由記述している一方、満足していない場合の内容が不明(自由記述欄に上がっていない)ですので、その点の情報が得られれば、今後の対策がより立て易くなります。

### ●泉ヶ丘キャンパス保健室

平成 29 年度学生生活満足度調査では保健室利用頻度について、学部生全体で 6～8 割、大学院生全体では 8～9 割が「ほとんど利用しない」と回答しています。このことから大半が怪我や体調不良などで保健室を利用することなく学生生活を過ごしていると推測できます。しかし、アンケート結果からは「少し利用しづらいイメージ」という回答もあり、病気や怪我だけでなく気軽に入室できる場であることを明示していく必要があると考えます。

生理用ナプキンに関しましては、自己の体調を把握し不意の事態に備えておくことも健康管能力を高めるためには大切なことです。保健室を利用せず売店で購入している学生もおられますので、基本的には売店で購入していただいておりますが、閉店している時にはお渡ししていますので遠慮なく来室して下さい。不在時の対応に関しましては、事務局に依頼していますが、学籍・氏名をお伝えいただければ後日こちらから連絡します。

## リベラルアーツ学部

多様な専攻を自由に組み合わせる学修ができる本学部の学びに関しては、「大学カリキュラムや科目履修システムの満足度」の高い数値に加え、自由記述での評価にも表れています。本学部のこの学びの特性についてのさらなる充実を願う記述も見られますので、カリキュラムの変更・改善ができる折には、そうした意見のひとつひとつに対して解決策を考えていくことを惜しまないように心がけます。

人数の多い専攻の学生からは、教育環境や授業内容についてより適切なものとなるよう要望がありますので、今後、対応を関係部署と協議し改善策の実現に向けていきたいと思っております。教育環境におけるスペースの問題に関しては、使われていない施設等の有効活用によってその問題を解決できるものもありますので、管理体制の構築とあわせ実現の可能性を探ります。

また、授業内容・進め方・選択についても、授業の前提となる学修の習熟度に対応したレベル別のプログラムによるモチベーションの持続、連携する授業の相互協力、選択の自由度を高めるさらなる工夫などの観点から、創造的で質の高い改善について協議を続け、学生との相互協力も得ながら、実現できるものについてはタイミングを逸することのないよう実施してくよう努めます。

リベラルアーツ学科

### ●回答率について

回答率は全体として昨年の 60%台から 70%台に伸びています。本年度においては、演習などの授業時ではなく、オリエンテーション時など全体が集まる折を基軸として実施する形にしたことがその要因と考えられます。回収の徹底についてはまだ改善の必要があると思われます。特に、2 回生については、他の学年よりも回収率が低いので、オリエンテーション時と演習の授業時など回収の機会を複数回にして徹底することで改善を図りたいと考えます。

### ●「大学カリキュラムや科目履修システムの満足度」について

リベラルアーツ学科は、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生を合わせると 72.3% となっています。昨年度より 6%程増えています。他学科との大きな差は見られず、本大学の標準的な満足度に沿った数値と言える一方、自由記述から伺われる点として、「選択の幅」への満足度が指摘されたことから、この点のさらなる充実をはかることが望まれます。また、韓国語専攻学生などの増加に対応したカリキュラムの運用や学習環境サービス(専攻のための「ラーニング・コモンズ」の設置)も要望されており、この点の改善をはかるとさらに満足度が増すと考えられます。

### ●「大学の授業の困難度」について

「ほとんど感じていない」は 50%台で、「全く感じていない」を合わせると 60%台に達し、昨年度とほぼ同じとなっています。また、大学全体の傾向ともほぼ同じであると言えます。「たびたび困難を感じる」32.3%、「常に困難を感じる」7.5%についても、大学全体の比例に沿っていますが、あえて言えば、「常に困難を感じる」が昨年の学科の数値より 5%ほど増加している点は今後注視すべきことと言えましょう。この点については、全体的な対応による改善というよりは、困難を感じさせている個々の状況についての情報共有を行い、対応・改善できる要素であるのかを定期的に確認するように心がけることといたします。

### ●「教員の態度・対応」について

教員の態度・対応に対する満足度については、授業改善アンケートによる意見聴取、オフィス・アワーの告知(研究室、シラバス)、演習科目担当者による担任制度におけるコミュニケーション、毎月の学科会議による情報共有、FD 研修などにより、不適切な態度・対応がなされないようにするチェック体制を整えており、さらには本調査の自由記述における情報に対して適切に対応することで補われています。今回例えば「連絡の遅さ」が 2 名の自由記述によって指摘されていますが、C-learning の使用率の高まりとともに、相互の連絡において何が問題となったのかについても記録となる可能性が高くなっていますので、必要な場合は検証に使用できるという点を含めて満足度の向上のための便利なツールとしてさらに利用の増進をはかるようにします。ハラスメントに関しては、大学全体のシステムとしてハラスメント防止委員会があり、相談と防止に対処すべく学科から委員と係を適切に配属して、プライヴァシーの保護にも努め、その防止や対応に真摯に向き合っています。

## 人間科学部

### ●基本データについて

学生生活全般に関しては、解答率では学科別では、キャリア 77.8%、情報メディア 82.8%、心理学科 72.3%、食物栄養管理栄養士 85.2%、健康実践栄養士 83.1%であるが、それぞれの学生の実数は、63、169、451、352、160 となり、人数と解答率には、相関はないように見える。さらに学年別で見ると、新入生は回答率が高く、上回生になるに従い回答率の低下傾向にある。全体として 78%以上が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答しており、昨年(77%)とほぼ同じである。改善に向けての効果が、ほぼ落ち着いたとみられるので、更なる向上にはなんらかの改善が望まれる。さらに学科別に見るとキャリア英語学科は 85%、食物栄養学科は、81%以上の学生が満足していると回答しており、情報メディア学科 77%、心理学科は、76%の学生が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答しており、学科間での差がみられる。

学年別に評価スコアをみると、1 回生が 3.01 と最も高く、2、3 回生では、減少し、4 回生では、2.90%付近まで回復している。これは、専門性教育とのハザマによる教員とのコンタクト不足もその原因のひとつと考えら、卒論やゼミなどを通じ、教員とのコンタクトとおもに、上昇に転じたと思われる。一方男女間では、昨年とは異なり、女子の評価が低く、性差がみられた。無回答のスコアが一番高い特色をもっている。

**28 年度との比較** さらに前年度との比較を行うと、全体の回答率は報告書にあるように 1 ポイント上昇がみられる。さらに詳細にみるとリベラルアーツ学科と心理学科の回答比率が上昇したが、今年度は食物栄養学科の回答率が低下した結果、各学科別の回答率は平準化している。

#### ●学生生活全般に関して

大学全体の評定平均値は、2.82(2.92)となっている。「満足している」、「どちらかといえば満足している」の回答率は 71%(78%)で低下している。学科別で見ると、リベラルアーツ学科とキャリア英語学科、情報メディア学科、心理学科は、70 から 77%の学生が、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答しているが、食物栄養学科では、その割合が 68%(81%)と大きく落としている。この点については、学科だけでなく、学部、大学としてその原因を解明する必要があると思われる。

**28 年度との比較** 全体の評定平均値は、2.82(2.92)となり、満足度そのものは低下している。前年度の学科別の評定平均値と比較すると、食物栄養学科が、前年度 2.94 から今年度 2.76、情報メディア学科が前年度 2.95 から今年度 2.78となっており、両学科は他学科に比べて低下が大きい。「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答している回答割合について、1回生 74%(84%)、2 回生 65%(74%)、3 回生 67%(77%)、4 回生 78%(79%)で、2~3 回生の満足度がやや低下している。これと中退者との関連を調べる必要がある。男女別では、前年度と比較すると、男子 66%(77%)、女子 73%(78%)であり、女子の評価が高く、性差がみられた。

#### ●「大学カリキュラムや科目履修システムの満足度」について

全体の評定平均値は、2.79(2.83)となっている。「満足している」「どちらかといえば満足している」の回答割合は 71%(73%)でほぼ変動はない。学科別に見ると、心理学科が 67%(66%)、他学科が 70%台(66%~80%)となっており、心理学科が相対的に低くなっている。これは、学科の幅、多様性とも関連していると考えられ、より分かりやすくすることが望まれる。学年別にみると、1回生 73%(82%)、2 回生 71%(71%)の学生が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答しており、3 回生で 63%(65%)、逆に 4 回生では 77%(70%)に回復していることから、専門性の深さも考慮する必要がある。

#### 28 年度との比較

全体の評定平均値は、前年 2.83 から本年度 2.79 となり、満足度そのものは低下している。「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答割合について、学科別に見ると、リベラルアーツ学科では、「満足している」「どちらかといえば満足している」の回答率が前年度 66%から今年度 73%と増加しているのに対して、食物栄養学科が、前年度 80%から今年度 73%へと低下している。このデータと中途退学者の割合について検討する必要があるが、学科間の差が少なくなり、平準化する傾向がみられる。さらに注目すべきは1回生の満足度が全体に低下していることである。大学全体で真摯にカリキュラム等について考慮すべきであると考えられる。

#### ●「大学の授業の困難度」について

全体の評定平均値は、2.57(2.65)となっており、わずかな改善が見られる。「ほとんど感じない」「全く感じない」の回答割合は 56%(60%)である。学科別に見ると、「ほとんど感じない」は情報メディア学科が 44%(51%)で、他の学科では50%台(50%)となっており、「全く感じない」を合わせると、キャリア英語学科の学生の 64%、リベラルアーツ学科の 60%が困難を感じていないと回答しており、他の学科では、その割合が 50%台となっている。学年別では、1回生では 45%(43%)、2回生では 52%(45%)と増えて、3回生では漸次減少している。

#### 28年度との比較

ぜんたいの評定平均値は、2.65から、今年度 2.57 であり、困難を感じないという回答が減少している。「困難さを感じる」という学生の割合がやや増えている。学科別に見ると、「キャリア英語学科の学生で困難を感じる」という学生の割合が 35%(59%)と減少して、情報メディアと食物栄養学科で困難を感じるという学生の割合がそれぞれ、47%(38%)、44%(38%)と増加傾向にある。学年別では、2回生で困難を感じる学生が増加していることから、指導法について教員間で改善する必要がある。

#### ●教員の態度・対応

今回上記については、教員に対する満足度では、前回とは異なり、教員それぞれの分野の優れた専門家として記載はなかった。ここでは、教学に限定するが、概して語学及び学科別では、授業の進め方や指導法の工夫に関して、不公平や満足していないという回答も多く、厳しい指摘も受けている。具体的には、1) 学科あるいは教員レベルでの標準化がされていない指摘、2) 授業に携帯を持参する教員がいること、3) 教育実習の開講時期時機の問題、C-ラーニングが未だ有効に使用されていない指摘とアクティブラーニングの取り入れが少ないこと、4) 学生への連絡事項が遅いこと、5) 教科書は無駄と言う指摘、6) 講義中の静粛さを保つこと、7) 講義や休講などの連絡が遅い、などが挙げられていた。

これらのことは学部で共有し、オフィス・アワーやアドバイザークラス制度の充実、ゼミや卒論研究における指導等を通じて対応し、PDCAサイクルにのった教員評価も含めた総合的かつ抜本的な改革を今継続中です。特に、指摘 1) については、29年度は教員評価を実施いたしました。さらに教育では、大学として「日本語力」、「英語力」、「ICT活用力」、「論理的思考力」のある全人教育をめざしていることを宣言しています。また、教科書は、授業だけで使うものではなく、常に自分のそばにおき、4年間に渡り使用するので、無駄ではないことを理解してもらえるように努めます。

上記と並行して、ICT教育の基幹となるC-ラーニングは、不十分との指摘もありますが、双方向の学習を含め現実の授業や演習において十分なものとなるように一層の努力をいたします。さらには、総合的に個人のデー

ター(出席、課題提出など)を全教員で把握できるように ICT との協働により、IR のセンター設立を目指して改善に繋がります。さらに、指摘のあるアクティブラーニングの充実に努めます。

大学の教職員全体として、学生の自学自習の力を大切に Student First の精神に基づき、常に学生目線に立ち、「学生が将来を切り開くために必要な資質・能力」を教職員が協働で探求し、その資質・能力を学生がしっかり身につけられるような教育プログラムや授業方法を開発、実施するPDCAを行い、そこからの成果を解析把握し、さらなる改善に繋げていくように努めます。今重要視されている高大接続教育、特に入学前教育については、高大接続委員を通じて全学レベルで高校から大学への知識や学習法の連続性を高めていくようにいたします。これらを通して、基礎力をつけながら、高く深い専門性にみにつけ、学生が社会に広く認められる資質・能力を獲得し、高く深い満足度をもって卒業できるよう本制度を活用、社会から信頼されるようにしていくつもりです。

## キャリア英語学科

今回の調査において、キャリア英語学科の2年生および3年生の回答率が昨年比べて低かったのは、海外留学中の学生を未回答者としてカウントしているためです。留学中の学生数を除けば90%を超える回答率でした。みなさんのご協力に感謝します。また、留学中の9名がもし回答してくれていれば、異なる結果となった可能性が考えられるので、そのことを了解したうえで以下のコメントを読んでください。

学生生活全般において、77%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えていることはよいことだと感じます。ただ、11名のみなさんが「どちらかといえば満足していない」と回答していることは気になります。その理由を明らかにし、不満足要因をできるだけ取り除いていきたいと思えます。今後一層、学生満足度が上がるよう、みなさんの学生生活を豊かにするためのサポートを提供していきたいと思えます。

大学のカリキュラムや科目履修のシステムについて79%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と答えていることはよいことだと感じます。10名の「どちらかといえば満足していない」あるいは「満足していない」との回答に対し、その理由を明らかにし、より満足してもらえる改善、工夫をしたいと考えています。特に学年別のデータを収集し、今後のカリキュラムと科目履修システムの改善に役立てるつもりです。

大学の授業で困難を感じているかどうかという質問に関し、「常に、あるいはたびたび困難を感じている」との回答が35%となったことは、昨年60%近くだったことと比較すると、改善が見られました。今年度より、1年生に対しては、水曜3限に隔週で補習授業を導入し、先輩学生にSAとしてサポートにはいつてもらったことも要因かもしれません。2年生の英語テキストを一部見直したり、夏休みの補習も実施しました。何より、みなさんが、明確な学習目標を持ち、日々頑張った成果だと思えます。今後も、わからないことや困難を覚えることは放置せず、各担任や担当教員に気軽に相談してください。タイムリーな学習サポートを受けることが、「授業での困難」を回避する最適な方法だと思えます。

「自由記述」に対し、少しコメントを付します。7項目ほどありましたが、キャリア英語学科の専門科目以外の授業での印象を記述してくれているものもあるようです。いずれにせよ、教員の態度や対応、あるいは他の受講学生の態度に対する疑問や不快感をいただいているものが多いように思えます。もう少し言葉によるコミュニケーションができていれば、その場で解決した問題もあるように感じます。教師は教室での明確なルール作りとその実行を、学生は他の学生に対する配慮をそれぞれ心がけて、みんなでよい学習環境を作っていくことをめざしましょう。

## 情報メディア学科

自由記述「大学の教員や授業のことで、不満、不満足に思うこと、その他意見」に対する回答です。

「授業を受けて満足」「小テストを毎回してくれる教員の授業は分かりやすい」など授業を評価する意見が見られる一方、「口が悪い」という意見もあります。良い評価の部分は伸ばし、そうでない評価の部分は反省し改善して行きたいと思います。また、「全体的に難易度の高い授業が少ない」という意見がある一方、「難しい」「卒業できるか心配」という意見もあります。難しい内容でも分かりやすく説明するように心がけます。

「無限単位制度に戻してほしい」との意見があります。年間に修得できる単位数の上限を外してほしいとの意見だと思います。年間に取得できる単位数の上限は、4年間で卒業でき、かつ1年間で無理なく学べることから設けています。計画的に単位を取得するようにして下さい。

「ドイツ語を泉ヶ丘キャンパスで受けられないのに不満を感じる」との意見があります。17年入学生から、情報メディア学科の語学は英語が必修になったとも影響していますが、人間科学部でドイツ語を履修する学生が少なくなっているため、不便をおかけしています。

「『わからんことあるか?』ときかかれても、手を上げづらいのでいみがないです」との意見があります。そのようなときはC-Learningの相談室も利用してください。「同じ学科の先生どうして、もうすこしパイプを持ってほしい。たまに、先生間での情報共有が出来ていない時がある」との意見があります。ご意見を反省して受け止めます。

前年度要望が多かった、映像関係のゼミですが、平成29年度より映像制作を専門とする専任教員が着任しました。

## 心理学科

### ●昨年度からの見直し

最初に昨年度のアンケート結果から、「大学生活全般への満足度」と、「カリキュラムにおける時間割配置の偏りや履修登録の難しさ」、について振り返らせて下さい。大学への満足度について、どちらかと言えば満足していない、満足していないと答えた方が2015年度の28.4%から24.3%、26.0%と1.7%増加しています。しかしながら、実数は15名減少しています。これからも1人でも満足していただけるよう努力していきます。

カリキュラムへの不満について、どちらかと言えば満足していない、満足していないと答えた方が2015年度の33.2%から34.1%、32.9%と微減しています。一方、平均値は2.70と5学科中最も低い値となっています。カリキュラムは29年度から変更され、さらに改善を検討している最中です(2018年1月25日現在)。今後にご期待ください。

以下は授業に対する意見ですが、即座に対応しなければならない意見と、複数の方から頂いた意見、その他改善が実現できる意見に的を絞ってお答えします。

### ●授業について

昨年度の心理学科教員は「授業に遅刻しない」ように取り組みましたので、その意見はありませんでした。一方で、「授業時間を守ってほしい」という意見と「生徒の私語が多い」という意見が複数見られました。次年度はこれらの意見への対応に取り組みたい所存です。

残念ながら、「シラバスに沿った授業内容や評価がなされていないのではないか」という意見を1名より頂きました。これはあってはならない事です。直ちに事実を確認し、対応させていただきたいと思います。

カリキュラムや教職課程についてのご意見を複数頂戴しましたが、いずれも現時点で検討している変更で対応可能なものです。対応が遅くなり恐縮ですが、何卒ご容赦ください。

「買ったテキストを使わない」というご意見を頂きましたが、専任教員は授業中にテキストの使い方を明示的に伝える、という方針で昨年度から対応しています。非常勤講師にまで徹底できていませんが、一方で種々の授業を国家資格に対応していく必要もあります。帝塚山学院大学推奨かつ国家資格に対応したテキストで4年間使えるものがないか、精査し、可能であれば複数の授業で使えるものを指定できればと考えております。

## 食物栄養学科

### ●学生生活全般について

「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答した学生を併せると 68.3%となっています。そして、残りの中で「満足していない」と回答した学生は 4.7%となっています。平成 28 年度と比較すると、満足度が若干低下している結果となっています。今年度の結果に関し、以下項目毎に検討を加え今後の改善に繋げていきたいと思ひます。

### ●カリキュラムや履修システムについて

「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答した学生を併せると 73.1%となっています。そして、残りの中で「満足していない」と回答した学生は 4.0%となっています。学生生活全般の結果と比較すると満足度が高い結果となっていますが、平成 28 年度と比較すると、やはり満足度が若干低下している結果となっています。

カリキュラムに関する意見はありませんでしたが、「ゼミ配属決定が遅い」という意見がありました。今年度は、一部のゼミ担当教員が交代する時期となり、新任教員人事が遅れたためゼミ配属決定が遅れましたが、次年度からはこのようなことは無いと思ひます。

履修システムについては、これまで以上にC-ラーニングシステムを活用する機会が多くなります。このシステムでの出席管理は、時折座席チェックとのダブルチェックによる出席確認で不正行為防止を行っています。また、授業の変更連絡や補講等の各種連絡もこのシステムで素早く行います。

### ●大学の授業について

「まったく困難を感じない」と「ほとんど困難を感じない」と回答した学生を併せると 55.3%となっています。そして、残りの中で「常に困難を感じる」と回答した学生は 3.5%となっています。管理栄養士課程では国家試験があるためレベルが高く量が多い授業内容となっていますが、「常に困難を感じる」学生は少ないことがわかりました。いずれにせよ、「困難を感じる」学生は早期に把握し、アドバイザー教員を通してしっかりと対応を取っていきます。

上記と関連して、「生徒の理解度を確認せず授業を進める先生がいる」「進行が早すぎてついていけない」等の意見がありますが、これらについては授業範囲のこともあって進行を早めざるを得ない時もありますが、教員間で連絡を取り合って改善していきます。

また、「授業の変更や補講等の連絡が遅い」との意見がありますが、この点に関しては C-ラーニングシステムを使用し素早く連絡をするようにしていますが、より早く連絡できるよう努めています。

「スライドが見にくい」や「話が聞き取りにくい」との意見がありますが、座席指定の場合に席の位置によってこのようなことが起こりがちです。そのような学生用に前の席が空けてありますので担当教員に申し出て下さい。また、スライドの字は大きく見やすいようにしていきます。

#### ●教員の態度・対応について

昨年度は教員に関する好意的な意見が多くあり、学生と教員間のコミュニケーションがうまく取れていることが実感できました。今年度は、教員の態度・対応をはじめ教員の資質に関する意見がほとんど無く少し残念な気がします。

「特定の学生を特別扱いし、個々の学生への対応が異なる」との意見がありますが、学科の先生は学生には同等の対応をするはずで、学科会議でこのような意見があることを共有し、話し方や口調等改善点があればしっかりと改善していきます。学科教員は学生に対し、勉強のことに留まらず、多くのことに親身になって熱心に対応するよう心掛けています。相談事等がある時には遠慮無くゼミ担当教員やアドバイザー教員に尋ねて下さい。

#### ●学習環境

昨年度は、講義室、実験・実習室等におけるマイクや映像機器等の不備・故障や不具合についての不満がほとんどありませんでしたが、今年度は、「スクリーンやマイクの調子が悪い」や「エアコンの調子が悪い」等の意見が散見していました。不具合がある場所や内容を特定し、大学の方に改善をお願いしています。